

1 題材名 「私たちの提案～岩手修学旅行の経験をもとに～」【主として 伝達・発信の活用】

2 授業のデザイン

【授業設定の理由】

CD科の学習では、効果的なコミュニケーションを創出するために活用できる様々なスキルを学ぶとともに、多様な人や自然、歴史や文化などとの「共生」をテーマとした学習を3年間積み重ね、スキルを活用することのできる学習場面を設定してきた（1年：生徒祭プロジェクト、横浜校外学習プロジェクト、2年：志賀林間学校PRプロジェクト、「『多様性』に開かれた社会に向けて」等）。

そのような学習の流れや積み重ねをふまえ、第3学年では6月に体験した「修学旅行」での様々な人・もの・こととの出会いから学び、その学びや経験を通して、東北地方の抱える課題（人口流出、震災復興など）を克服したより良いまちづくりや、その街のもつ良さを生かしたより良いまちづくりへの工夫について、帰校後も考え続けるといった一連の学習を行い、3年間を通して深めてきた「共生」をテーマとした学習の集大成にすることとした。

本単元は、修学旅行を通して直接経験地域となる平泉・花巻・遠野・釜石に住む人や街とを、地域特色やよさを生かしながら活性化し、SDGsの視点を踏まえながら、住み続けられる街作りの方策を生徒自らが模索し提案することをねらいとした。この一連の活動を通じて、今、ここで自分たちが出来ることは何かを各々が探り、地域や人とのかかわり方を省察する契機としたい。

地域をより良くしたり、地域の課題を克服したりする活動に自分ができる形で参画していく力は、これからの持続可能な社会作りに欠かせない資質・能力である。本プロジェクト学習を通して、卒業後も様々なステージで継続的に、多様な人・もの・ことと共生できる人間になることを期待している。

【学習の課題】

・修学旅行で訪問した地域が抱えている課題について掘り下げて調べ、その課題を解決するための方策について提案する。（キーワード：持続可能な・実現可能な・説得力のある）

【学習のゴール】

・自分なら「どんなことができるか」「何がしたいか」考えることができる。
・地域の特色をふまえ、先行事例を生かして、「持続可能な・実現可能な・説得力のある」方策を提案できる。

【学習材・ツール】

・タブレット、クロームブック（各班一台）・動画
「世界中に広めよう 持続可能な開発目標」
・「未来を変える目標 SDGsアイディアブック」
・PMIシート・提案書・プレゼンシート6枚
・遠野民泊班ポスター（7月作成）

【関連して活用される知識・理解・技能】

・CD科
【論・発】発想法、KJ法、PMIシート
【対・協】効果的な話し合いのワザ
・社会科：東北地方の学習、地域の在り方

【学習の展開】

①講演会「東日本大震災～あの日を知り、これまでを想い、これからを考える」 講師：花巻市教育委員会指導主事（元釜石東中学校教諭） 齋藤真先生	⑦⑧「私たちの提案」を考えよう～課題決定、調査、企画書作り （キーワード：持続可能な・実現可能な・説得力のある）
②齋藤先生の思いを生かし、岩手での修学旅行につなげよう～インタビュー案作成	⑨6枚のプレゼンシートを作成し、ポスター形式にまとめ、クラス内発表をしよう
③修学旅行民泊班でポスター制作をしよう～修学旅行でのリサーチ（講話・情報収集・インタビューなど）をいかして	⑩学年発表会「ポスターセッション」（本時）
④遠野（岩手）の「魅力と課題」を共有しよう～ポスター発表、シェアした情報をPMIシートで分類する	⑪発表会のふりかえり
⑤SDGsについて知ろう（動画、SDGs アイディアブック）～「住み続けられる街作り」のための提言を考えるために	⑫活動全体のふりかえり
⑥国内外「住み続けられる街作り」の先行事例をリサーチし、まとめ（6枚のプレゼンシート）、クラス内で発表しよう	

3 単元の評価

コミュニケーション・デザインに関する知識・技能	コミュニケーション・デザインのための思考・判断・表現	コミュニケーション・デザインへの態度
・協働的な課題解決を達成するために必要なツール等の利点や意義について理解したうえで、 <u>必要なツール等を活用している。</u>	・協働的な課題解決を達成しようと <u>論理的に考える</u> とともに、課題解決にあたって必要な効果的なコミュニケーションの在り方について判断し、 <u>他者と適切なコミュニケーションを創造している。</u>	・協働的な課題解決を達成しようと、課題を把握し、解決を目指す過程において、 <u>意欲的に他者と関わりながら活動するとともに、その過程や結果について省察し、より良い在り方を見いだそうとしている。</u>

4 本時の学習

(1) 本時の目標

- ① グループ毎に効果的な表現を工夫して、提案が聞き手にとって分かるように発表する。
- ② ポスターセッションにおいて、お互いのグループの提言が SDGs の観点から「持続可能な、実現可能な、説得力のある」発表であったかを省察する。

(2) 本時の展開

	主な学習内容と活動	指導上の工夫・配慮
課題設定	《発表会の前に》 ・「持続可能性の構成要素」の図を見ながら、キーワード（持続可能な・実現可能な・説得力のある）を伝える側・聴く側とも再確認する。 ・今日の発表のポイントを班の中ですりあわせ、発表方法を工夫してわかりやすく伝える。	・「課題とねらい」を明確にさせる。 ・電子黒板に「持続可能性の構成要素」を示すとともに、発表内容がわかりやすくなるよう工夫させる  持続可能性の構成要素図 © 2011: イベントの持続可能性に関するマネージメントシステム 2011より
課題追究	《発表会》20グループ ・ポスターセッション15分（7分発表5分質疑・3分移動）を3交代で行う。 ・各自、付箋（ピンク：よい点 青：課題点）を持ち、「どの点がよいか、どの点が課題か」等の意見をメモして、移動のタイミングでポスターの該当箇所に張っていく。	・キーワード（持続可能な・実現可能な・説得力のある）や地域がもつ“よさ”を意識して提案が考えられているか、地域に暮らす住民の視点ではどうかなど、聴く側が多面的に考察できるよう配慮する。 ・意見交換が活発に行われるよう全体の様子に眼を配り、適宜発問等を与える。
省察	・ゲスト（富士原紀絵先生）よりコメントをいただく。 ・意見の付箋を分類し、他班の発表内容も参考にしながら、提案内容のよさと課題を見いだす。 ・シートにまとめ、次回「改善案をつくろう」につなげる。	・提案について省察し、よさ及び課題（見直しが必要な点）を明確にさせる。 ・自分たちの提案についての新たな方向性や改善案の見通しを持たせるよう、適宜アドバイスする。

(3) 本時の評価の観点

- ① 相手と場所、状況を意識し、適切で効果的な表現（ポスターを使った発表）を行うことができたか。【知識・技能】
- ② 班内での対話を通して、他者の意見と自分達の意見とを比較し、関係性や重要性を見極めながら整理・分析し、よりよい課題解決につなげることができたか。【思考・判断・表現】